

## 「ペトロの否認」

2014年11月29日

マルコによる福音書 14 章 66 節～72 節。 ペトロが下の中庭にいたとき、大祭司に仕える女中の一人が来て、ペトロが火にあたっているのを目にすると、じっと見つめて言った。「あなたも、あのナザレのイエスと一緒にいた。」しかし、ペトロは打ち消して、「あなたが何を言っているのか、わたしには分からないし、見当もつかない」と言った。そして、出口の方へ出て行くと、鶏が鳴いた。女中はペトロを見て、周りの人々に、「この人は、あの人たちの仲間です」とまた言いだした。ペトロは、再び打ち消した。しばらくして、今度は、居合わせた人々がペトロに言った。「確かに、お前はあの連中の仲間だ。ガリラヤの者だから。」すると、ペトロは呪いの言葉さえ口にしながら、「あなたがたの言っているそんな人は知らない」と誓い始めた。するとすぐ、鶏が再び鳴いた。ペトロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」とイエスが言われた言葉を思い出して、いきなり泣きだした。

主イエスが捕縛された時、ペトロをはじめ弟子たちは皆、逃げ去った。つい先ほど、一緒に死ぬようなことがあっても、あなたを知らないなどとは決して申しませんと言った矢先に逃げ出した。ペトロは自分自身に驚き、落胆しただろう。しかし、連行された主イエスのことが心配で、人ごみに紛れ、裁判が行われている大祭司の中庭に入った。時は、3月の終わりか4月の初めである。中庭には、暖を取るたき火が燃やされていた。ペトロは火にあたっていると、顔が火に照らし出された。一人の女中が、ガリラヤ人の顔のペトロをじっと見て「あなたも、あのナザレのイエスと一緒にいた」と名指しした。ペトロは慌てて「あなたが何を言っているのか、わたしには分からないし、見当もつかない」と打ち消した。出口の方に逃れて行くと、鶏が鳴いた。別の女中が「この人は、あの人たちの仲間です」と周りの人に言い出した。ペトロは再び打ち消した。しばらくして、居合わせた人々にも「確かに、お前はあの連中の仲間だ。ガリラヤの者だから」と言われた。ペトロは呪いの言葉さえ口に「あなたがたの言っているそんな人は知らない」と誓い始めた。三度目の否認をした直後、鶏が再度鳴いた。その時、ペトロは「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」とつまずきを予告した主イエスの言葉を思い出した。ペトロの決意、言葉はもろくも崩れ去った。彼は愕然とし、いきなり泣きだした。ルカ福音書は「鶏が鳴いた。主は振り向いてペトロを見つめられた」と書いている。主イエスのまなざしはどのようなものであっただろうか。ペトロは叩きのめされた。

戦争中、朝鮮で特高警察をしていた人の話を聞いたことがある。彼は朝鮮のクリスチャンに「神社参拝」を強制した。ところが、彼らはイエス・キリストの神以外には参拝しないと反抗した。そこで、激しい拷問を加えた。それでも、頑として応じない。これだけ拷問しても、神社参拝を拒否するキリスト教信仰はどんな信仰なのか知りたいと聖書を読んてみた。福音書は、弟子たちが見事に転んだ顛末を記しており、驚いたと言う。確かに、福音書は弟子たちの挫折の物語である。主イエスを愛していたが、理解せず、不甲斐なく裏切っていたことが書かれている。福音書は人間の弱さを見つめた書物である。特高警察だった人は、戦後クリスチャンになった。

聖書は、人間の弱さを知り抜いて、赦しにおいて、立ち上がらせてくださる神の働きを伝えている。つまずき、倒れ、自分自身に絶望しても構わない。必ず、立たせてくださる。